

東日本大震災に関連し、国民に語り掛けられる上皇さま=2011年3月、皇居・御所応接室(宮内庁提供)



福島第1原発事故直後の主な経過 ※肩書は当時

- 2011年 3月11日 ▶東日本大震災発生。東京電力福島第1原発の1～5号機で全電源喪失
- 12日 ▶1号機原子炉建屋で水素爆発
- 14日 ▶3号機建屋で爆発
- 15日 ▶菅直人首相が東電本店を訪れ、原発から職員が撤退した場合「東電は100%つづける。覚悟を決めてほしい」と表明。4号機建屋で爆発
- 16日 ▶天皇在位時の上皇さまがビデオで国民向けに「皆がいたわり合って、この不幸な時期を乗り越えることを衷心より願っています」とメッセージ
- ▶米政府が半径80*の圏内の米国民に避難を呼び掛け
- 14年3月 ▶菅元首相が共同通信配信のインタビューで、約5000万人を避難対象とする「最悪のシナリオ」もあり得たと説明

原発事故から来年で10年。政権の放射性物質放出に対する切迫感と、上皇さまの被災者へ寄り添う姿勢が改めて浮かんできた。菅元首相は共同通信社の取材に「頭の中で考えていたことは事実だ。だが、私の方から陛下(当時)に打診したり、誰かに言ったり話として聞いていた」と証した。当時の宮内庁関係者は「お断りした覚えはある。政府というより、政治家個人の意向を内々に尋ねた。菅元首相は上皇さまの意向を内々に尋ねた。菅元首相は上皇さまの意向を内々に尋ねた。菅元首相は上皇さまの意向を内々に尋ねた。」

2011年3月11日に発生した東京電力福島第1原発事故の直後、当時の民主党の菅直人政権が、天皇在位中の上皇さまに京都から西に避難するよう非公式に打診していたと、元政権幹部が29日までに証言した。宮内庁側は上皇さまの意向として「国民が避難していいのに、あり得ない」と伝え、政権側は断念したという。複数の元宮内庁幹部は皇位継承資格者である秋篠宮さまの長男悠仁さまの京都避難も検討したと明かした。

11年福島原発事故

天皇の京都避難を打診

菅直人政権 陛下意向受け宮内庁拒否

言。上皇さまへ伝えたかどうかは「事後にお伝えしたことはあったかもしれない」とした。避難先は京都御所を想定していたとみられる。悠仁さまの避難は放射性物質が首都圏に広がった場合の検討課題」として宮内庁で浮上したが、結局見送られた。

福島第1原発は津波被害で全電源喪失状態となり、震災翌日の3月12日から15日にかけて1号機、2号機、4号機で水素爆発が発生した。枝野幸男官房長官(当時)は「悠仁さま避難も検討」をめぐり、菅直人政権が天皇在位中の上皇さまや、秋篠宮さまの長男悠仁さまの避難を検討していた背景には、皇位継承に影響しかねないとの危機感が透ける。上皇さまは同日の記者会見で「(原発から)20、30キロの地域で屋外活動をして、直ちに人体に影響を及ぼす数値は出ていない」と説明。一方、米政府は半径80*圏内の在日米国民に避難を呼び掛けていた。

当時、上皇さまの東京脱出のうわさが流布され、川島格待待長(当時)は月刊誌「文芸春秋」11年5月号に寄せた手記で「陛下が東京の人々を見捨て、東京から出られることなきを得ない」と記述している。

相対し、被災者を気遣う上皇さま夫妻の「お気持ちを伝達。9都県で計画停電が決まった13日には、ご夫妻が官庁街は対象外でも御所は節電に協力すべきだ」との意向を示され、15日には自発的な停電を始めた。

16日、国民を見舞うテレビメッセージを収録し、同日夕方にはテレビ各局で一斉に放映。「被災者の方々の苦難の日々を、私たち皆が、さまざまに形でも多く分かち合っていくことが大切だ」と呼び掛けた。4月から5月上旬には毎週被災地に向かい、国民を励まし続けた。

一方、政権から上皇さまへの避難打診からは、予測困難な被ばくの広がりへの懸念が見え隠れする。菅氏は14年の共同通信のインタビューに、原発から半径250*圏内の約5千万人が避難対象となる「最悪のシナリオ」もあり得たと説明した。

政権、皇位継承への影響懸念

悠仁さま避難も検討

神戸新聞 2020. 12. 30 (水) 分

2011年3月11日 午後2時46分
 早や10年。天皇制をいろいろ議論するのは勿論自由である。ただ天皇家もまた いろんな制限や犠牲の下に成立していることも理解して如るべきではないだろうか？